

写真1 右—No. 1個体背側 左—No. 2個体腹側

る在来種のキクスズメガイと本種の割合が逆転し、本種が多い場所も見られる。今後の、富山湾における本種の動向を見守る必要がある。

謝 辞

本報告をまとめるにあたり、快く標本を提供していただいた越後俊之氏に感謝する。

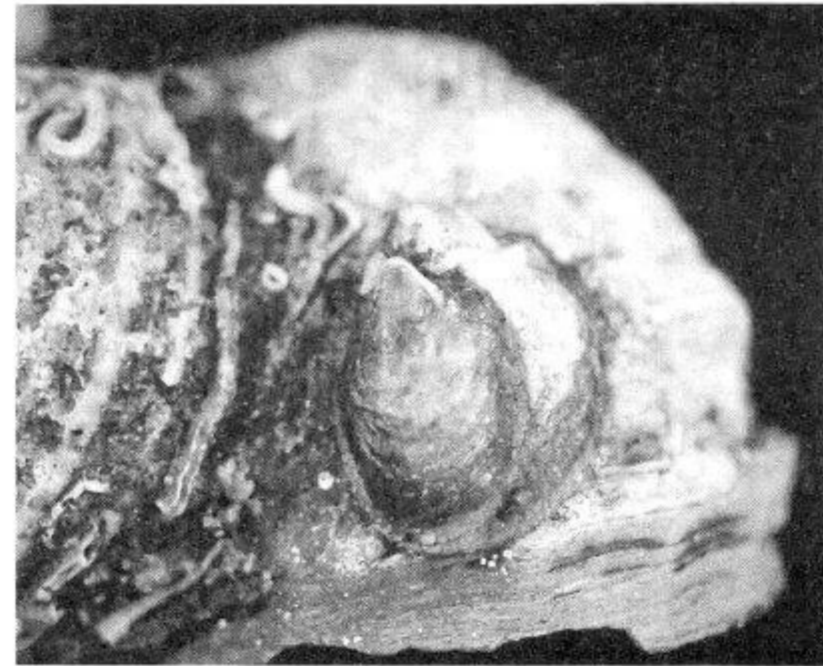


写真2 サザエの殻口近くに付着したシマメノウフネガイ

文 献

- 小林茂雄・布村昇. 1999. 海産貝類リスト. 氷見市史9資料編7自然環境, 506pp. 氷見市史編さん委員会, 氷見市.
- 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録, 880pp. (株)エル貝類出版, 大阪.
- 間瀬欣弥. 1969. 相模でとれた. ネコゼフネガイ. ちりぼたん. 5(6): 156-157.
- 布村昇編. 1988. 富山と能登の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録. 2: 1-128.
- 布村昇・宮本望編. 1994. 富山市の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録. 7: 1-95.
- (2000年12月28日受理)

キヨズミオオクジャクシダ、オオクジャクシダ、ハコネオオクジャクシダ 3分類群の識別点について

中川 定一

〒935-0004 富山県氷見市北大町13-47

A Note for Identification on 3 Taxa of *Dryopteris namegatae* (Kurata)
Kurata, *D. dickinsii* (Fr. et Sav.) C.Chr. and *Dryopteris* × *hakonecola* Kurata

Teiich Nakagawa

Kita-oomachi 13-47, Himi-shi, Toyama 935-0004, JAPAN

はじめに

キヨズミオオクジャクシダ、オオクジャクシダは能登半島に多いたく、能登の植物(小牧, 1987)を見ても、少ないとか希少とは書かれていない。オオクジャクシダについては、富山、石川両県ともに多いたく分布情報を記録した文書も多い。さらに、オオクジャクシダとオクマワラビとの雑種としてハコネオオクジャクシダが知られ、これがキヨズミオオクジャクシダとも形態が似ているために慣れないと分類することが困難である。筆者は平成12年2月から、富山県氷見市鞍川および脇において上記3種の形態を比較し、識別することができたので、その結果を報告する。なお、ハコネオオクジャクシダの発見は1998年冬である。

3種の概略(表1)

・キヨズミオオクジャクシダ

富山県内のキヨズミオオクジャクシダの産地は、これまで上市町1ヶ所(倉田・中池, 1985)しか知られていないため、太田(1999)は、本種を富山県における絶滅危惧I B類にランクしている。能登地方では、石川県七尾市、鹿島町、鳥屋町など5ヶ所の産地がある。

今回新たに筆者が採集した氷見市の産地は脇地内、七尾市や鹿島町に近い所である。葉の形は小牧(1987)の図と同じであり、下の羽片があまり小さくならない。また、黒色の鱗片の宿存(長く鱗片が残る意味)する特徴(倉田・中池, 1985)にも当てはまるので、キヨズミオオクジャクシダであると確信した。

生育環境は腐葉土の多い急な斜面で、まばらな雑木やリョウメンシダなどがあつた。証拠標本は富山市科学文化センター(TOYA)に納めた。

・オオクジャクシダ

富山県内の産地はやや多い。しかし、普通の山歩きでは年に1~2回ぐらい出会うぐらいだから、希少種である。氷見市における生育地は、仏生寺、堀田などの湧き水が流れている杉林の林縁で、葉の形、ソーラスは小牧(1987)の図と同じで、下の羽片が徐々に小さくなる。

・ハコネオオクジャクシダ

(オオクジャクシダ×オクマワラビ)

筆者は、鱗片の黒味がやや不足しているこのシダを初めはキヨズミオオクジャクシダと思っていたが、2000年11月に鱗片が脱落してなくなっていることに気づき、キヨズミオオクジャクシダではないことが判明した。

ハコネオオクジャクシダの下方の羽片の鋸歯は、オオクジャクシダよりハコネオオクジャクシダのほうが深く(図2, 3)、小羽片の脈の数が多(図1)。

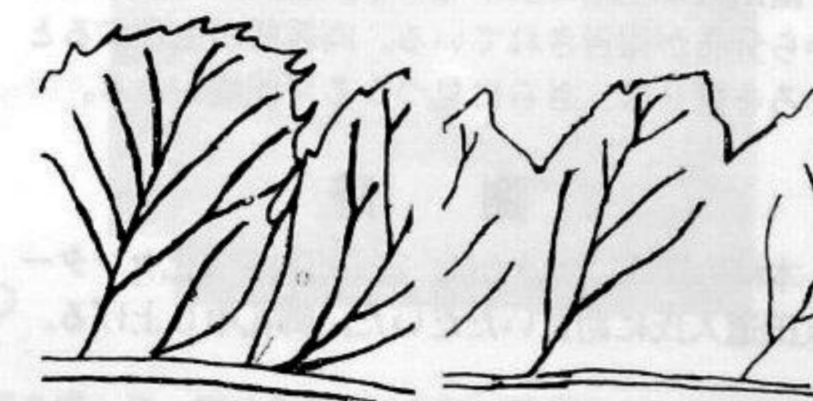


図1 ハコネオオクジャクシダとオオクジャクシダの羽片の脈の様子

また、ハコネオオクジャクの葉軸の下方の鱗片は、オクマワラビに似て先端は葉軸からはなれるのに対し、オオクジャクシダは圧着する。しかし、色はオオクジャクシダに似て茶褐色である。これらの特徴から、ハコネオオクジャクシダであると判断された。

これらのシダは、5月に新芽を出し、5月10日の観察では、草丈はオオクジャクシダとオクマワラビが50cm前後と小さく、ハコネオオクジャクは70cm前後と大きかった。

倉田・中池 (1997) には、「両種が混生している中に唯1株見出されたのみで」云々とあるが、氷見市の産地でも今のところ両者の混成地で1株のみである (図5)。

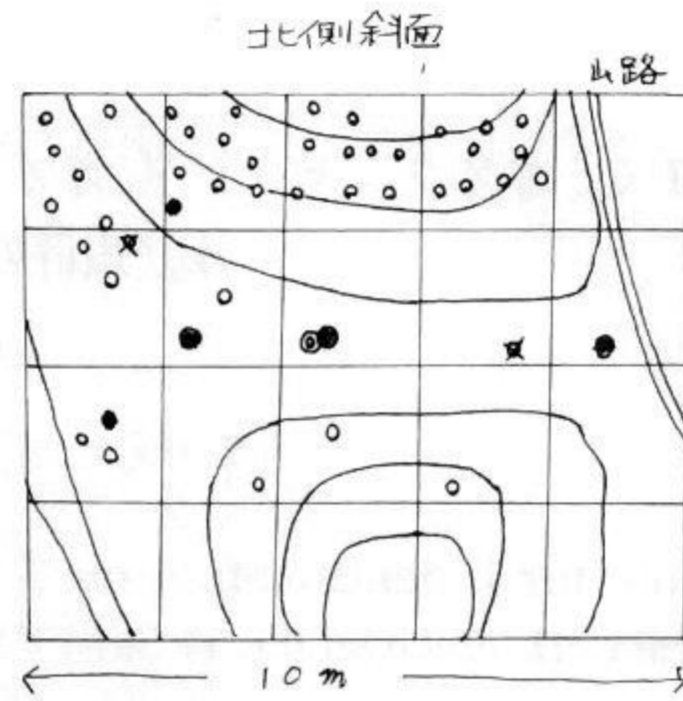


図5 氷見市鞍川におけるハコネオオクジャクシダ(○)の生育状況

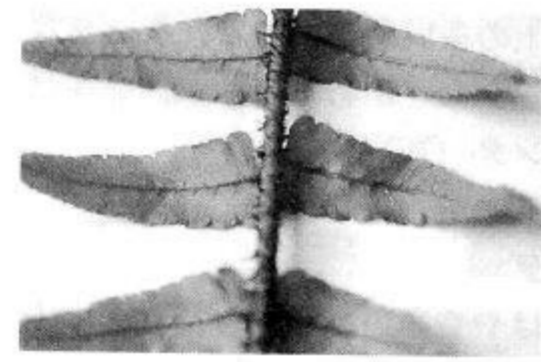


図2 オオクジャクシダの中軸と羽片

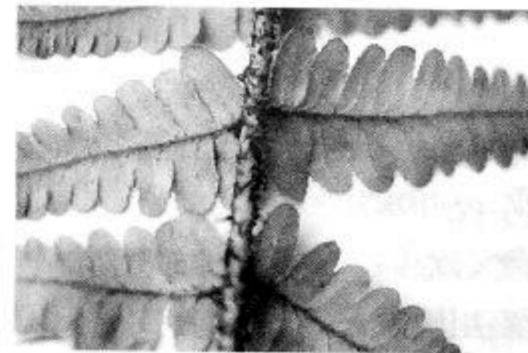


図3 ハコネオオクジャクシダの中軸と羽片

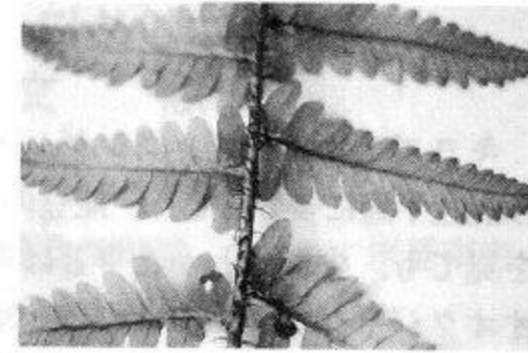


図4 オクマワラビの中軸と羽片

表1 キヨズミオオクジャクシダほか3種の特徴比較

形質		キヨズミオオクジャクシダ	オオクジャクシダ	ハコネオオクジャクシダ	オクマワラビ
葉	全体	長楕円形 黄緑色	楕円形 濃い緑	楕円形 緑	楕円形 緑
	羽片の切れ込み	浅い	深い	深い 一部2回羽状複葉状になる	深い 往々、2回羽状複葉状になる
鱗片	色	茶色~褐色	黒色	茶褐色	黒褐色と黒い筋
	落性	早落性	宿存性	早落性	宿存性
孢子嚢群		葉裏全面	葉裏全面	葉裏の上半分	葉裏の上半分

富山県の産地は上市町のみ、石川県では七尾市から分布が報告されている。両親種が生育するところを探せば、さらに見つかる可能性がある。

謝辞

本稿の構成については、富山市科学文化センター 太田道人氏に助言いただいた。御礼申し上げます。

文献

小牧旌. 1987. 加賀・能登の植物図譜, 273pp.

同刊行会. 石川県.
倉田悟・中池敏之. 1985. 日本のシダ植物図鑑 4, 850pp. 東京大学出版会, 東京.
倉田悟・中池敏之. 1997. 日本のシダ植物図鑑 8, 473pp. 東京大学出版会, 東京.
太田道人. 1999. 富山の絶滅危惧植物. 特別展「ともに生きよう! 地球の仲間たち」展示解説. 富山市科学文化センター: 23-25.
(2000年12月28日受理)

富山市でのニホンヤモリの卵の観察例

南部 久男

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山県富山市西中町1-8-31

A Record of Eggs of Japanese Gecko, *Gekko japonicus*, at Tayama City, Central Japan

Hisao Nambu

Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31, Toyama-shi, Toyama 939-8084, JAPAN

ニホンヤモリの卵を発見した場所は筆者が勤務する富山市科学文化センター内 (富山市西中野町1-8-31) である。2000年11月30日に、当館の吉本敬子氏が発見し筆者が連絡を受け確認したものである。卵があった場所は、正面玄関の受付にあるパンフレットとバケツの傘置き裏側で、床からの高さ49cmのタイルの壁面に2個生み付けてあった (図1)。卵は傘に隠れ、周りからは見えない位置にあった。卵は白く長円形で、大きさはそれぞれ15×11、14×9mmであった。卵の下側には幼体が抜け出たと思われる穴が空いていた。

この場所は当館の受付で売店も兼ねている。壁際には、販売用の荷物が置いてあり、荷物の裏で成体1個体、亜成体1個体が見みられた。当館は、1979年(昭和54年)11月にオープンし、周辺は城南公園となっている。オープン直後より通用口の玄関内の壁面でヤモリを確認しているが、以後、時々館内の玄関周辺等で目撃される。

今回の卵の情報を教えていただきました吉本敬子氏に厚くお礼申し上げます。

(2000年12月28日受理)

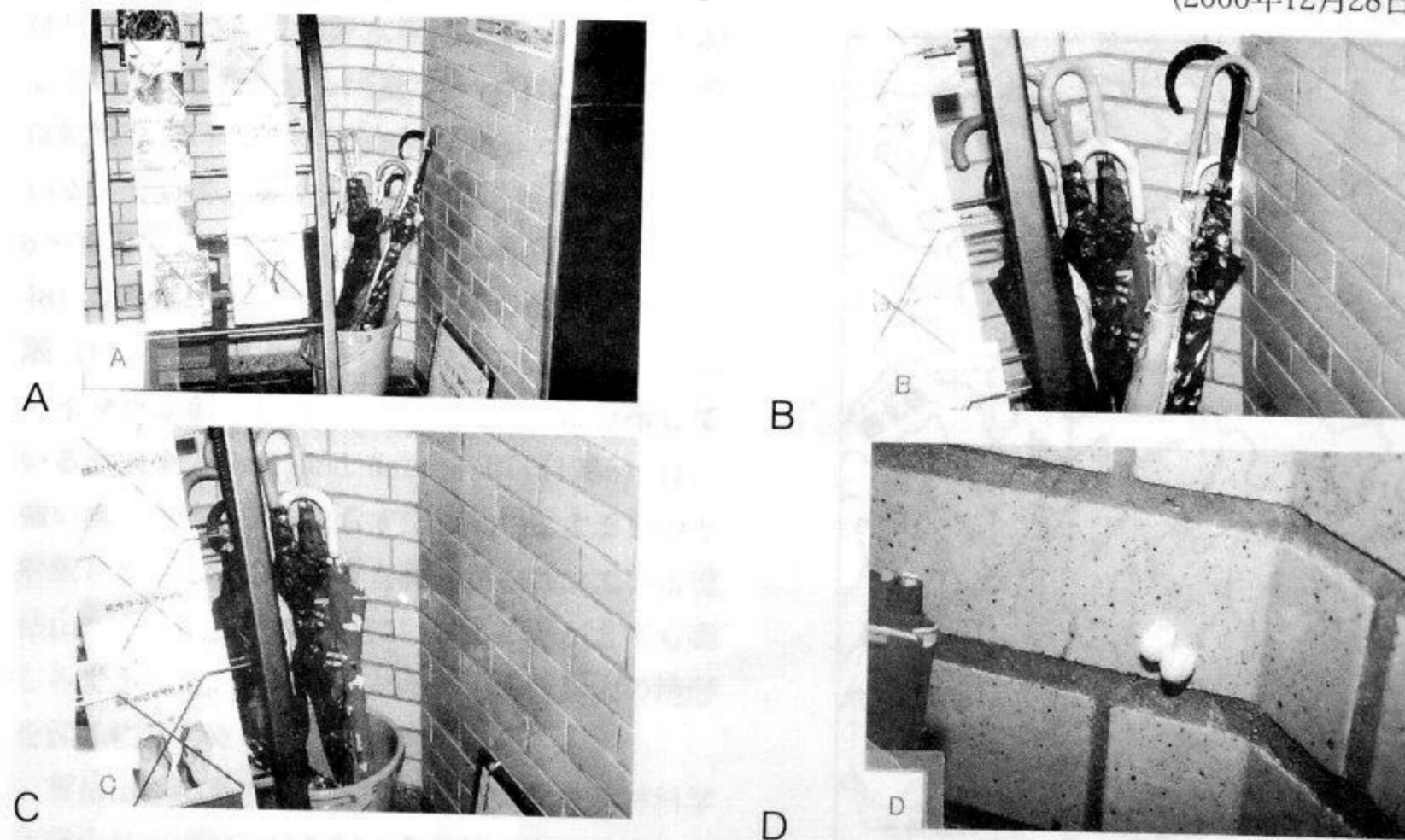


図1 ニホンヤモリの卵の確認場所
A. 卵が産みつけられていた、受付のパンフレットと傘置き場 B. 卵は傘の裏にあり、見えない
C. 傘をどかしたところ D. 壁のタイルに産みつけられていた卵